

## 第2学年道徳学習指導案

日 時 平成21年11月20日 2校時

対 象 2年生(男17名 女13名 計30名)

指導者 山本 雅子

1 主題名 家族のために (4-(3) 家族愛)

2 資料名 ぼくのうちの夕はん(文溪堂 2年生のどうとく)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3章 道徳の第1学年及び第2学年の内容の4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(3)に、「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。」とある。この項目は、中学年の4-(3)「父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。」に発展し、さらに高学年の4-(5)「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。」へと発展していくものである。

「父母、祖父母を敬愛する」とは、自分の存在やこれまでの成長が父母・祖父母の深い愛情に支えられたものであることに気づき、家族に尊敬や感謝の気持ちを抱いたり、家族を大切にしようとしたりすることと考える。

「家族の役に立つ喜び」とは、家族を思って行動をした結果、自分のしたことが認められ、家族が喜んでくれた時に感じる、「やってよかった。」「またやってみよう。」という素直な気持ちととらえる。

家庭は、社会を構成する最も基本的単位として人間形成の基盤づくりの役割を担っており、日々の家庭生活が、父母、祖父母などの努力のうえに成り立っていることや、さまざまな形で自分を包んでいる家族の愛情について児童に気づかせることはとても大切である。さらに、家庭における自分の立場や役割を知ること、進んで家の手伝いをしようとする気持ちを育て、家族の役に立つ喜びを自覚させる必要もあると考える。

この期の児童は、生活面で親に世話してもらうことが非常に多い。その一方で、家族に何かしてもらうことを当たり前ととらえたり、欲求が満たされないといわがままを言ったりする傾向もまだ強い。そこで、日頃世話をしてくれる家族の努力に気づき、家の手伝いなどをして進んで家族と交わりながら、家族の一員として役に立つ喜びを実感させることはとても大切であると考え。

(2) 児童について

省略

(3) 資料について

本資料は、共働きの両親にあまり協力的でなかった主人公が、渋々取りかかった米とぎの練習を通して、家族のために役に立つ喜びを感じ、次の手伝いへの意欲を膨らますという話である。

子ども達は、自分の手伝いの体験を重ね合わせながら、家族のために役立った喜びを共感的に理解できると考える。従って、家族の一員として、進んで手伝いなどをする大切さに気づかせるのに適した資料である。

(4) 指導の態度

「気づく」段階では、自分の手伝いの体験を発表させ、なぜ手伝いが大切なのか投げかけなら、資料に導入していきたい。

「深める」段階では、両親に頼まれても素直に手伝いができない主人公の心情を理解させ、手伝いに対して消極的であることを押さえたい。また、練習を通して仕事をする喜びを感じ始めた主人公の心情も押さえたい。

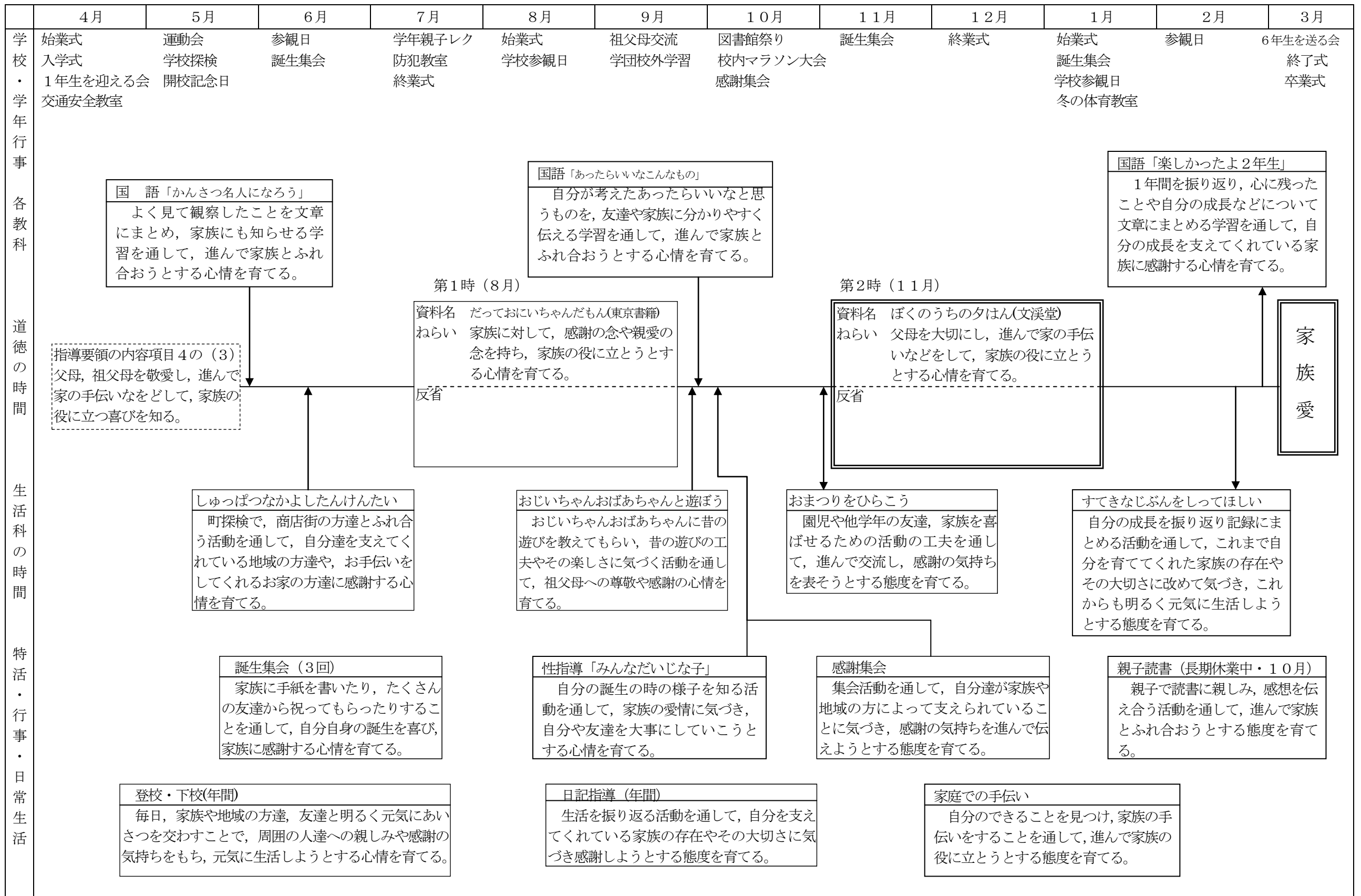
「つかむ」段階では、「気づく」段階での自分や友達の体験と主人公の体験を重ね合わせることで、家族に認められたり、喜ばれたりして得られる満足感や充実感に十分に浸らせたい。

「広げる」段階では、自分を見つめる手立てとして、家族の役に立つためにどんな手伝いができそうか書く活動を取り入れ、ねらいとする価値に迫っていききたい。

「まとめる」段階では、家の人からの手紙を読み、家族の一員としての自分の役割をあらためて確認したり、家族への思いを新たにしたりする場とし、実践意欲を高めていきたい。

4 全教育活動における本時の位置づけ

2年重点指導項目 4の(3) 家族愛



5 本時の指導

(1) ねらい 父母を大切にし、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立とうとする心情を育てる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	期待する児童の反応	指導上の留意点 (◆仮説にかかわる手立て)
気 つ く 5 分	1 手伝いについて話し合う。 ○普段家でどんな手伝いをしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご飯の支度。</li> <li>・玄関掃除。</li> <li>・洗濯物たたみ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にアンケートをとり、児童の実態を把握しておく。</li> </ul>
深 め る	2 資料を読み、感想を発表しながら学習課題を確認する。 ○お話を読んで、いいなと思ったことを発表しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張って練習したまさきはえらい。</li> <li>・お父さんとお母さんにほめてもらってよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公のまさきのよさにふれながら、まさきの変容を考えていくことを確認し、課題につなげていく。</li> </ul>
	「あしたから、ぼくにまかせてね。」と元気よく言ったとき、まさきはどんな気持ちだったでしょう。		
つ か む 27 分	3 「まさき」の気持ちを中心に考え、話し合う。 ①お母さんに「てつだって。」と言われたとき、まさきはどう思ったでしょう。  ②「う、うん……。」と言ったとき、まさきはどんな気持ちだったでしょう。  ③お父さんとお米とぎの練習をしているまさきは、どんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題をするんだから。</li> <li>・お腹が空いているのに。</li> <li>・面倒だなあ。</li> <li>・いやだよ。</li> <li>・お母さんを助けたいな。</li> <li>・自信がないよ。</li> <li>・仕方ないか。</li> <li>・できないよ。</li> <li>・やりたくないなあ。</li> <li>・ぼくにもできそう。</li> <li>・お母さんは、こんな仕事もしていたのか。</li> <li>・ちょっとおもしろいな。</li> <li>・むずかしいな。</li> <li>・冷たくていやだけど、がんばろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手伝いを頼まれたときの消極的な気持ちを押さえない。</li> <li>・新しく手伝いが増えることに対して、抵抗を感じる主人公の心情に共感させ、迷っている気持ちを確かめる。</li> <li>・自分の手伝いの体験を想起させ、主人公の感じた難しさや大変さ、反対に、やり方のコツが分かりはじめたときのおもしろさを押さえる。</li> <li>◆米とぎの手伝いをしたことがある児童に意図的に指名し、その時の様子を動作も交えて発表させる。</li> </ul>
	④「あしたから、ぼくにまかせてね。」と元気よく言ったとき、まさきはどんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも続けるぞ。</li> <li>・がんばってやって、よかったな。</li> <li>・もっと早く手伝っていればよかった。</li> <li>・ぼくにもできてうれしい。</li> <li>・喜んでもらってうれしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆担任が父親や母親役になり、称賛や感謝の言葉を伝えることで、自分が父母の役に立ち、そのことでとても喜んでもらった主人公のうれしさや満足感を実感させる。</li> </ul>
広 げ る 10 分	4 自分自身を振り返る。 ○家族のために、これからどんな仕事ができそうですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんが忙しい時に、洗濯物たたみを手伝いたい。</li> <li>・頼まれたときだけでなく、いつもお茶碗洗いをしたい。</li> <li>・やったことはないけれど、お風呂掃除にも挑戦してみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆プリントを活用し、書くことで、家族の役に立っていかうとする意欲づけを図る。</li> </ul>
ま と め る 3 分	5 家の人からの手紙を読む。		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆家族が日ごろ感じていること、手伝いについての思いなどについて知り、本時の価値のまとめとする。</li> </ul>

# ぼくのうちの夕はん

「あしたから、ぼくにまかせてね。」と元気よく言ったとき、まさきはどんな気もちだったでしょう。

「てっだつてくれると、はやくでまいるんだけど。」

- ・ しゅくだいするんだから。
- ・ おなかすいてるよ。
- ・ めんどうだなあ。
- ・ いやだなあ。

「おめきといへるもええとたすかる。」

「おかあさんがたすかるとおもまじつ。」

- ・ たすけたい。
- ・ じしんがないよ。
- ・ しかたないか。
- ・ できないよ。
- ・ やりたくないよ。

家族で  
夕食

おとうさんとれんしゅう

米とぎを  
している  
まさき

- ・ ぼくにもできそう。
- ・ おかあさんは、こんなしごとをしていたのか。
- ・ ちよつとおもしろいな。
- ・ むずかしいな。
- ・ つめたいけど、がんばろう。

「うまくできたじゃないか。」

「ありがとう。」

- ・ これからもつづけるぞ。
- ・ がんばってよかった。
- ・ もっと早くやればよかった。
- ・ ぼくにもできた。
- ・ よろこんでもらってうれしい。

◎かぞくのために

7 資料分析 資料名 ぼくのうちの夕はん

(出典 文溪堂「2年生のどうとく」) ねらい 父母を大切にし、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立とうとする心情を育てる。

